



2017 ANNUAL REPORT

公益社団法人 東京青年会議所



TOKYO

和の心を
世界へ

美徳溢れる国際都市
「東京」の実現

オーダースーツ 工場直販

SADA × Marines

©C.L.M.

あなたのスーツは
体にフィットしていますか？

オーダースーツ
初回お試し
24,800円(税別)が5,000円引きで
19,800円!(税別)

または
オプションサービス!
(7,000円~10,000円分)
高級ボタン + 裏地 + チェンジポケット、折り目安定加工、色糸指定1色、重ねボタン、股の補強よりいずれか1つ

オーダーシャツ
初回お試し
1枚 6,900円(税別) 2枚 11,800円(税別) 3枚 14,700円(税別)
5,900円!(税別)

スーツが原因で多くの男性が
印象を台無しにしています!



20代~30代女性500人に聞きました
スーツが原因で印象を台無しにしている
ビジネスマンを見たことがありますか?

- 原因1 サイズが大きくてダボダボのスーツ
原因2 古くて、くたびれているスーツ
原因3 サイズが合ってなくツツルテンのスーツ

6つのポイントをセルフCheck!

上着の襟とシャツの襟は
隙間が無い状態になっていますか?
真っ直ぐ立っているのにスーツに
隙間やシワが出来る場合、
身体にフィットしていません。

スーツのジャケットはお尻がジッパーが
隠れる長さになっていますか?
お尻が見えるくらい着丈が短かったりするのは
ちょっとみっともないです。

太ももの裏が1.5cm前後
つまめるくらいのちょうどいい
サイズになっていますか?
3~4cmつまめてしまう場合は、
もも周りがダボダボに見えてしまいます。

肩はジャストフィットしていますか?
肩パッドと自分の肩の間に大きく空間が
空いていると不格好に見えます。

ウエストは腰骨のあたりに
片方の手の平が差し込める
サイズになっていますか?
両方の手の平が入って動かしてしまうのは
大き過ぎて、ベルトを締めたときに
不自然なヨレがでてしまいます。

パンツの裾は靴の上部に
丁度接する長さになっていますか?
靴ヒモや靴の上部にパンツの裾が
接するようにしましょう。

身体が大きな方、スポーツ経験者の方に!

こんなことで悩んでいませんか?
スポーツ経験者は、上半身と下半身の発達に差があり、ジャケットとスラックスの号数が異なってしまう。大きい方のサイズに合わせて、小さい方はダボダボに余ったスーツを着ている人が多い。
【野球】お尻が大きくなり、ベルトが開きやすい。身体に厚みが出て、二の腕が太くなる。
【サッカー】運動量が多く、上半身はしまっている。腿と前側のふくらはぎが発達し、上下のバランスが良くない。
【アメフト・ラグビー】上半身と腿が大きく、首が太い。しかしウエストが細いので既製服だと上半身に合せて大きく着るか、とてもきついのを無理やり着るかになる。又、首が太いために上衿が浮いたり、胸が厚くなるので開きがちになる。
【剣道・柔道】剣道も柔道も手の長さが違う場合が多く、同じく寸法の既製服だとシャツの出入に違いが出てしまう。身体のカセとして、左右の肩の高さが違うため、袖丈も変わってしまう。

解決策
SADAのオーダースーツは、体の二十数か所を採寸し、その結果をもとにCAD(自動設計システム)がパターンを起こしてお仕立てするので、体型に癖のあるスポーツ経験者の体にもフィットするスーツを仕立てることが可能です!

工場直販オーダースーツSADAは社会貢献活動の一環として
プロサッカー・プロ野球チームにオーダースーツを提供しています。



2017 ANNUAL REPORT

INDEX

- 4 2017年度の活動の軌跡
- 6 理事長挨拶
- 7 副理事長・専務理事挨拶
- 8 2017年度東京JCアワード報告
- 9 2017年度例会報告
- 12 委員会活動報告
- 18 日本JC諸大会報告
- 19 JCI・海外渡航報告



『ラグジュアリー』と『スポーティ』。先鋭化する2つの価値。2つのトリムオプションとともに、新型『クアトロポルテ』。



【モデル】			【トリム】	
Quattroporte	V6 2.979cc 350ps	¥12,060,000	GranLusso	¥13,340,000
Quattroporte S	V6 2.979cc 410ps	¥14,060,000	GranLusso/ GranSport	¥15,340,000
Quattroporte S Q4	V6 2.979cc 410ps	¥15,090,000	GranLusso/ GranSport	¥16,370,000
Quattroporte GTS	V8 3.799cc 530ps	—	GranLusso/ GranSport	¥19,460,000



マセラティ 紀尾井町
トライデント イタリア株式会社
千代田区麹町5-3-1 TEL:03-6261-2801
営業時間:10:00~19:00 定休日:水曜日
www.dealers.maserati.com/kioicho

マセラティ 目黒
トライデント イタリア株式会社
目黒区碑文谷5-2-5 TEL:03-5725-8280
営業時間:10:00~19:00 定休日:なし
www.dealers.maserati.com/meguro

マセラティ 杉並
トライデント イタリア株式会社
杉並区宮前1-18-4 TEL:03-6861-5080
営業時間:10:00~19:00 定休日:火曜日
www.dealers.maserati.com/suginami



MASERATI

Quattroporte

※Quattroporte GTSはGranLusso/ GranSportのみ設定となります。※記載の価格は消費税込みの車両本体価格です。メーカーオプション装備価格、付属品価格、保険料、税金(消費税除く)、登録に伴う諸費用等は含まれておりません。
※リサイクル料金は価格には含まれておりません。別途必要となります。※写真は日本仕様と一部異なる場合がございます。

オーダースーツなら全国43店舗ある工場直販オーダースーツSADA or ネットショップへ!

2017年度の活動の軌跡

例会 諸会議 事業 わんぱく相撲



1/16
例会特別委員会
1月例会 和の心を世界へ
～美德あふれる国際都市「東京」の実現～

1/19～22
京都会議

2/22
総合政策委員会
2月例会 TokyoJC×ダイバーシティの流儀
～多様な個性を組織の強みに～

2/17～19
金沢会議

3/16
国際都市推進委員会
3月例会 一人一道
～文化から学ぶ和の心～

4/16
台東区委員会
わんぱく相撲台東区大会

4/22
大田区委員会
わんぱく相撲大田区大会

4/23
国際政策委員会
4月例会 Make Borderless Friendship
～ShallWeTalk!?CrossCulturePresentation!!～

4/30
文京区委員会
わんぱく相撲文京区大会

5/13
新宿区委員会
わんぱく相撲新宿区大会



5/14
江東区委員会
わんぱく相撲江東区大会

渋谷区委員会
わんぱく相撲渋谷区大会

豊島区委員会
わんぱく相撲豊島区大会

杉並区委員会
わんぱく相撲杉並区大会

中野区委員会
わんぱく相撲中野区大会

品川区委員会
わんぱく相撲品川区大会

目黒区委員会
わんぱく相撲目黒区大会

港区委員会
わんぱく相撲港区大会

江戸川区委員会
わんぱく相撲江戸川区大会

5/17
政治行政政策特別委員会
5月例会 ニュース読解力養成講座
～メディアのプロが教えるニュースのミカタ～

5/20
荒川区委員会
わんぱく相撲荒川区大会
北区委員会
わんぱく相撲北区大会

5/21
葛飾区委員会
わんぱく相撲葛飾区大会

中央区委員会
わんぱく相撲中央区大会

練馬区委員会
わんぱく相撲練馬区大会



5/27
板橋区委員会
わんぱく相撲板橋区大会

5/28
世田谷区委員会
わんぱく相撲世田谷区大会
千代田区委員会
千代田区少年少女相撲大会

足立区委員会
わんぱく相撲足立区大会

東京ブロック大会(三鷹)

6/8～11
ASPAC(ウランバートル)

6/10
墨田区委員会
わんぱく相撲墨田区大会
わんぱく相撲特別委員会
わんぱく相撲モンゴル大会

6/21
政治行政政策特別委員会
6月例会 Tokyoプロデュース会議
～大学生が創る!都議選公開討論会～

7/8
千代田区委員会
7月例会 ヒーローアカデミー
～2045年、あなたの子供は未来を生き抜けるのか～

7/15
荒川区委員会
あそぼう!まなぼう!あらかわぼうさい!

7/16
港区委員会
ドリームキャッチャープロジェクト2017



7/22～23
サマーコンファレンス

7/30
わんぱく相撲特別委員会
8月例会 第33回わんぱく相撲全国大会
『夢に向かって熱くなれ』
～つながりから学ぶ和の心～

8/5
関東地区大会(つくば)
板橋区委員会
Pay it forward
～板橋から広げる恩送りのこころ～

8/18～21
国際政策委員会
スモークマウンテンベースボールプロジェクト

8/21
墨田区委員会
すみだ防災フォーラム

8/26
渋谷区委員会
Shibuya Positive Action2017
～パパの笑顔が家庭を変える。
ママの笑顔が世界を変える～

9/2
江戸川区委員会
江戸川区共育のすゝめ

9/3
東京JCブランド確立委員会
9月例会 #東京イイもの
ミタイ・キキタイ・伝えたい/How do you find Tokyo?

9/9
世田谷区委員会
第5回夢をかなえる力



9/9
台東区委員会
下町から世界へ
～みんなで紡ぐ理解の和～

豊島区委員会
国際交流2017
～WE LOVE TOSHIMA～

新宿区委員会
新宿イメージアッププロジェクト2017

9/10
北区委員会
北区つながり創造プロジェクト

文京区委員会
こころのバリアフリー推進プロジェクト2017

品川区委員会
「夢へのキップ」
第4回品川英語スピーチコンテスト

9/13
中央区委員会
にぎわい国際交流プロジェクト

9/19～24
国際政策委員会
さくらサイエンス

9/24
練馬区委員会
ねりまチャイルドミーティング
杉並区委員会
Safe City Suginami Project

9/28
江東区委員会
～Diver-City KOTO～

9/28～10/1
全国大会(埼玉中央)



10/7
足立区委員会
あだち超学園祭

10/8
大田区委員会
国際都市OTAの"輪"

中野区委員会
なかのまちづくりキャラバン
葛飾区委員会
葛飾少年立志プロジェクト

10/13～15
衆議院議員総選挙公開討論会

10/15
目黒区委員会
Meguro English speech contest

10/18
国際都市推進委員会
10月例会 和の心を世界へ
～東京を世界一の都市に～

10/23
さよならブロック

11/6～10
JCI世界会議(アムステルダム)

11/22
総合政策委員会
11月例会 TOKYO JC×経済成長の流儀
～ダイバーシティマネジメント・レポート2017～

12/3
東京JCメンバーシップ特別会議
12月例会 クリスマス・卒業式例会
「和の心を世界へ」
～つながる絆が広げるWA!～



理事長挨拶

東京青年会議所（東京JC）が、2017年度も多くの運動を展開できましたことは、東京都をはじめとする行政や関係諸団体並びに関係各位のご理解とご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

IoT・ICTの進化による急速なグローバル化、AI・ロボットの台頭によるライフスタイルや価値観の多様化など、これから目まぐるしい変化の中で私たちは生きていくことになるでしょう。日本人として、未来を担う青年のリーダーとしてのあるべき姿について考え、2017年度東京JCの運動を展開しました。

2017年度は「和の心を世界へ〜美徳溢れる国際都市『東京』の実現〜」をスローガンに掲げて、

1. 和の心を世界へ発信する真の国際人の育成
2. 多様な個性を組織の強みに変えるダイバーシティマネジメントの推進
3. 東京JCブランドの確立による新たな価値の創造

といった3つのテーマで、個人の意識改革と社会システムの変革となる運動を行いました。

まず、1つ目の「和の心を世界へ発信する真の国際人の育成」では、日本人としてのあるべき姿についての方向性を示す運動を行いました。日本人は古来より相手を慮り調和する和の心を大切に受け継いできています。海外における私たちの最大の個性の1つは日本人であることです。グローバル化が急速に進む中、私たちは日本人としてのアイデンティティと国際社会の一員としてのアイデンティティを持ち合わせた「真の国際人」となり、世界に貢献できる人材となる必要があります。和の心から日本人の精神性について掘り下げていくことで、次代に受け継いでいくべき日本人のアイデンティティについての理解を深める一方、世界最大級の規模をもつJCIのネットワークを活かした民間外交を行い、東京JCメンバーそして地域市民の皆様に関係社会の一員としてのアイデンティティを持つための様々な運動をつくることができたと考えています。

そして、2つ目の「多様な個性を組織の強みに変えるダイバーシティマネジメントの推進」では、変化を活かす青年のリーダーとしてのあるべき姿についての運動を行いました。2045年、現在ある職業の49%はなくなると言われています。それだけ、AI・ロボットが私たちの生活に与える影響が大きくなっていくということです。価値観が多様化し、さらに激しい変化が起き続ける未来においても、私たちはイノベーションを起こすと共に新たな価値を創造できる強い組織をつくり、リーダーとしての手腕を発揮していかななくてはなりません。2017年度の東京JCの運動では、ダイバーシティマネジメントに関する調査・研究を行う一方、すべての東京JCの事業においてダイバーシティの推進に取り組んでまいりました。ダイバーシティマネジメントは目的ではなく手法です。しかしながら、ダイバーシティマネジメントを活用し成功するための教科書



はありません。私たちが絶えず多様な個性と関わり、議論を交わすことを積み重ねて、組織を前へ進めていくことが青年のリーダー即ちダイバーシティマネージャーとしての第一歩なのではないかと考えています。

3つ目の「東京JCブランドの確立による新たな価値の創造」への取り組みは、私たちが何者であるのか、何者であるべきなのかを考える素晴らしい機会となりました。東京JCは社会に大きなインパクトを与える運動を行う団体であり、私たちメンバーは能動的なリーダーとして様々なフィールドで活躍し続けることで東京JCブランドを確立することができるのです。翻って、本年はメンバーの拡大・スポンサーの拡大・サポーターの拡大だけでなく、運動発信にも力を入れてまいりました。質の高い運動をつくることはもちろん、SNS・WEBサイト・アプリなどを活用し、今まで東京JCの存在を知らなかった方々へ積極的にアプローチすると共に、独創性や手法にこだわった例会の設えにも挑戦し、幅広い層の方々に東京JCの存在を知って頂きました。これを契機に、2018年度の運動がさらなる広がりを見せてくれることを期待しております。

本年は国際会議において今後の東京JCの発展につながる機会にも恵まれました。6月にモンゴルのウランバートルにて開催されたASPACにおいてモンゴルのJCIセントラルと姉妹締結を結びました。また、JCIマニラと協働で2012年より行ってきた「スモーキーマウンテンベースボールプロジェクト2017」が、オランダのアムステルダムにて開催されたJCI世界会議アワードセレモニーの「最優秀組織間プロジェクト」部門において表彰されました。日本JCの中では唯一の受賞であり、東京JCにとっても3年ぶりの受賞という快挙となりました。いずれも、今後、新たな価値を生み出す国際の機会の創出につながると確信しています。

結びとなりますが、2017年度理事長をさせて頂けたことに心より感謝申し上げます。2017年度の運動で掲げた「美徳溢れる国際都市『東京』の実現」から、2018年度は「好循環で創る世界都市『東京』」へと昇華していきます。これまでの運動をお支えくださいましたすべての皆様へ感謝申し上げますと共に、2018年度以降もこれまでと同様に東京JCの運動にご理解、ご支援賜りますことをお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。1年間、本当にありがとうございました。

公益社団法人東京青年会議所
第68代理事長

波多野 麻美



副理事長・専務理事挨拶



副理事長・理事長代行 **村瀬 義則**

2017年度は、運動の柱となるダイバーシティ推進室及び東京JCブランディング室を通じて様々な施策に取り組みました。総合政策委員会では、2月例会及び11月例会並びに3回の勉強会を開催し、個人・組織・地域の観点からダイバーシティ推進を実施しました。また、東京青年会議所全ての事業においてダイバーシティの観点を取り入れ、調査・分析し、政策提言としました。対外連携推進会議では、様々な団体との関係構築をはじめ、一般市民との窓口となる東京アンバサダーズを設置しました。東京JCブランド確立委員会では、一年を通し対内外に関わらずブランド力の向上を目指し、携帯アプリJC-adaptaの開発及び運用、さらに9月例会と4回の勉強会を開催致しました。9月例会では9千名近くの動員を達成し、広く市民の皆様へTokyoの魅力を発信しました。東京JCムーブメント発信会議では、4回のTokyo JC Newsの発行と合わせて波多野理事長の外部メディアへの露出を促進させることにより効率的な運動発信を行いました。関係者の皆様、また全てのメンバーの皆様にご協力いただき、大変お世話になりました。1年間ご協力ありがとうございました。



副理事長・防災・減災推進協議会議長 **上笹貫 格士**

23地区委員会、防災・減災推進協議会、会員拡大特別会議を担当させて頂きました。地区委員会事業では「より市民目線の意義ある運動へ」を基本方針に設定して、2016年度に実施した第5回都民意識調査で明らかになった地域の課題を解決するべく、多様な価値観を運動に取り入れることにより地域の未来を先導していくことを目指しました。主体的に地域の発展に取り組む東京JCメンバーをさらに増やすことができ、メンバーの多様な個性から生まれたアイデアをもとに、多くの市民・関係団体の方々のご協力を得てインパクトある運動を展開することができました。防災・減災推進では23地区委員会において、行政や社会福祉協議会など諸団体の皆様との協力関係をさらに深めて、防災協定を中心とする災害対策ネットワークを推進することができました。お世話になった皆様への感謝とともに、今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げます。



副理事長 **堀口 泰佑**

2017年度、『教育』をテーマとしたグループを担当させて頂きました。政治行政政策特別委員会では、5月・6月例会から若者世代を中心とした政治リテラシーの向上を目的とした例会を開催致しました。また、東京都議会議員選挙においては各地区において公開討論会・座談会・政見放送を開催し、衆議院議員総選挙においてはネット型公開討論会を公示日後に開催致しました。わんぱく相撲特別委員会では、各地区大会をはじめ8月例会にて「夢に向かって熱くなれ〜つながりから学ぶ和の心〜」をスローガンに掲げ、わんぱく相撲全国大会を開催致しました。東京JCメンバーシップ特別会議では年間を通した委員会の枠を超えた自己成長・ネットワーク構築を掲げ、勉強会や活動を行い、また2017年度運動の集大成でもある12月例会を開催致しました。2017年度御支えいただけました皆様へ心からの感謝と御礼を申し上げます。1年間誠にありがとうございました。



副理事長 **伊澤 英太**

国際政策室、例会特別委員会を担当させて頂きました。国際政策室では、「和の心を世界へ発信する真の国際人へ」をテーマに、日本人の精神性と国際的な感覚を学び、その両輪から東京を世界一の都市にする為に、どのような行動を進めるべきかという視点で3回の例会を開催致しました。さらに、海外との民間外交においてはマニラJCとのSMBP in Tokyo、中国とのさくらサイエンスを始め、ASPACモンゴル大会、世界会議アムステルダム大会と多くの国際ミッションに参加し外国人と交流する事で、世界との友情を築く事が出来ました。また、2017年度の東京JCの例会は、一年を通してストーリー性をもってダイバーシティマネジメントを推進する運動を展開して参りました。多くのメンバーが参画し、一体感をもって臨む事により例年に無い様々な例会を設え、我々の運動を多くの一般市民へ発信する事で、新たなメンバーと賛同者を得る事が出来ました。2017年度、関わりを持っていただいた全ての方々へ感謝申し上げます。1年間誠にありがとうございました。



専務理事 **福田 貴之**

2017年度は、東京青年会議所への賛同者を増やす取り組み、また、各委員会・会議が連携する様々な取り組みを行いました。総務室では、渉外委員会が国内、国際諸会議ともに正副理事長のアテンドを担い、各委員会・会議との連携により、諸会議での行動計画を立て、効率的に実行しました。また、総務委員会では、3、4、8月と各担当地区委員会との連携により、ご当地理事会を行いました。財務審査特別委員会では早い段階での事業の審査を行うことで、円滑に実施することができました。新設した財務運営会議では、賛助企業回りを実施し、新たな賛同者との連携に寄与しました。専務ライン一同、年間を通して一体となり組織運営をすることで、各メンバーに学びの機会を提供できました。また、最後になりましたが、東京青年会議所に係る全ての皆様のご協力に心から感謝いたします。1年間誠にありがとうございました。

2017年度東京JCアワード

最優秀東京JC賞

新宿区委員会



優秀新人賞

永野 達也 (千代田区委員会)	高木 隆太 (品川区委員会)	佐治 良之輔 (練馬区委員会)	北村 麻里衣 (東京JCブランド確立委員会)
山家 直子 (中央区委員会)	原 征 (大田区委員会)	田中 修平 (江戸川区委員会)	井川 望 (国際都市推進委員会)
早津 研 (港区委員会)	増田 拓真 (世田谷区委員会)	秋葉 浩二 (東京JCメンバーシップ特別会議)	内田 洋幸 (総務委員会)
上田 貴之 (新宿区委員会)	瀧井 雅代 (渋谷区委員会)	伊藤 海 (わんぱく相撲特別委員会)	西川 裕貴 (財務運営会議)
駒津 啓佑 (台東区委員会)	松本 琢也 (中野区委員会)	高畑 公志 (例会特別委員会)	
須藤 肇 (墨田区委員会)	古本 雅裕 (北区委員会)	石坂 剛史 (会員拡大特別会議)	
山中 大輔 (江東区委員会)	鈴木 康彦 (板橋区委員会)	山内 亘 (総合政策特別委員会)	

優秀活動賞

香山 翔太 (千代田区委員会)	吉田 英樹 (大田区委員会)	保田 佳孝 (足立区委員会)	福岡 吉則 (対外連携推進会議)
辻本 祐介 (中央区委員会)	末原 伸隆 (世田谷区委員会)	平井 大千 (葛飾区委員会)	北 永久 (東京JCブランド確立委員会)
北村 麻里衣 (港区委員会)	弥田 有三 (渋谷区委員会)	越野 友博 (江戸川区委員会)	藤井 博行 (東京JCM-ヴメント発信会議)
高井 正樹 (新宿区委員会)	西尾 江平 (杉並区委員会)	香取 良明 (東京JCメンバーシップ特別会議)	佐野 顕弘 (国際政策委員会)
大和 親英 (文京区委員会)	上野 広樹 (豊島区委員会)	阿部 造一 (政治行政政策特別委員会)	下地 麻貴 (国際都市推進委員会)
秋葉 浩二 (台東区委員会)	村田 征都 (北区委員会)	珍田 汐花 (わんぱく相撲特別委員会)	遠藤 篤 (総務委員会)
太田 英伸 (墨田区委員会)	衛藤 清隆 (荒川区委員会)	島崎 亮 (例会特別委員会)	野間 一彰 (渉外委員会)
伊藤 海 (江東区委員会)	山内 亘 (板橋区委員会)	三上 瑛康 (財務審査特別委員会)	瀬戸 龍太郎 (財務運営会議)
正木 克典 (品川区委員会)	北本 新太郎 (練馬区委員会)	白根 育一 (会員拡大特別会議)	

優秀出向者賞

<日本青年会議所>

和田 壮司 (内部会計監査人グループ)	灘部 隆志 (公益資本主義推進会議)
奥澤 亮 (LOM連携構築委員会)	河内 豪 (メディアリテラシー確立委員)
永瀬 泰子 (経世済民会議)	丸山 智久 (政治参画教育委員会)
岩崎 孝太郎 (教育再生グループ)	照井 淳矢 (強い産業構造創出委員会)
高橋 輝彦 (国際アカデミー委員会)	大森 雄一朗 (財務運営会議)
朝倉 舞 (道徳教育推進委員会)	中村 公太郎 (財務運営会議)
石川 哲也 (道徳教育推進委員会)	

<関東地区協議会>

山本 健太 (経済再生委員会)
三枝 裕和 (教育再生委員会)
<東京ブロック協議会>
下野 貴史 (広報支援委員会)
川副 隼平 (防災減災推進委員会)
平野 裕明 (防災減災推進委員会)
金木 麗子 (アカデミー研修委員会)

優秀新人アテンダンス賞

小川 芳裕／北村 麻里衣／伊藤 海／秋葉 浩二／内田 洋幸／山内 亘／松本 琢也／佐治 良之輔／高木 隆太／鈴木 康彦

皆出席賞

須賀 寛文／井上 昌人／高橋 秀行／小川 芳裕

8大会議出席賞

須賀 寛文／久保田 悠介／児玉 康智／白石 力也／橋田 良彦

国内諸会議会出席賞

須賀 寛文／新井 一功／遠藤 篤／田中 淑之／久保田 悠介／蛸名 明／内田 任人／白石 力也／伴 久之／橋田 良彦／吉田 英樹／高橋 秀行／小川 芳裕

2017年度例会報告

1月例会

和の心を世界へ
～美德溢れる国際都市「東京」の実現～



2017年1月16日、東京ドームホテル「天空」において、今年最初の例会である1月例会「和の心を世界へ～美德溢れる国際都市「東京」の実現～新年賀詞交歓会」を開催致しました。東京商工会議所副会頭田中常雅様をはじめとする来賓の方々や、日本各地の青年会議所のメンバーだけでなく、世界から多くの青年会議所のメンバー、東京青年会議所の卒業生連にもお越しいただき、総勢663名の参加者が一同に会することとなりました。理事長波多野麻美君により、「和の心を世界へ～美德溢れる国際都市「東京」の実現～」という今年度のテーマを中心に力強くメッセージを発信致しました。また小池百合子東京都知事をお招きし、東京都政の掲げる政策と東京青年会議所が本年掲げる運動について波多野理事長と対談も行い、多くの取材陣が会場内に立ち並び中、対内・対外に東京青年会議所の1年間の運動を発信しました。

3月例会

一人一道
～文化から学ぶ和の心～



平成29年3月16日、有楽町朝日ホールにて「2017年度3月例会一人一道～文化から学ぶ和の心～」を開催致しました。日本文化から和の心を学ぶことの意味や必要性を理解し、個人の意識の中に民間外交の礎を築くべく日々の活動から「和の心」を世界に伝える活動をしておられる千宗室氏に基調講演を頂き、例会と併設の呈茶ブースでは立札の茶席で美味しいお抹茶と和菓子が振る舞われ、和の心を体感できる例会となりました。さらに、日本在住歴が40年以上、駐日大使全体の代表となる「駐日外交団長」として日本人以上に日本への造詣が深いマンリオ・カデロ大使に講演いただき、最後のクロストークではタレントのバトリック・ハーラン氏にもご登壇頂きました。日本の文化を誇りに持て。議論するべき時はする。そのためには自分たちが日本のことをよく知って、議論するための土台を築いている必要がある。和の心を世界中の人が持っているれば平和な世の中になる。本例会を通して、日本文化背景にある歴史や精神性を体験し、今後外国人と接する機会が増えていく中で、和の心をもって交流する重要性を意識付けすることができました。

2月例会

東京JC×ダイバーシティの流儀
～多様な個性を組織の強みに～



平成29年2月22日、ZeppDivercityにて2017年度2月例会「東京JC×ダイバーシティの流儀～多様な個性を組織の強みに～」を開催致しました。2月例会ではダイバーシティマネジメントをテーマとし、我が国が世界に先駆け、多様な個性を組織に取り入れて新たな価値観を創造し、推進、実行に移していくことを目指し、東京青年会議所メンバー30名がカンファレンスに参加し、様々な議論が行われました。アンケートの結果からカンファレンスの内容は参考になったという意見が多かったです。カンファレンスの総括・講評を齋藤ウィリアム浩幸氏に行っていました。日本人は、相手への信用が足りない・失敗を恐れる・人のせいにするということから、多様性が生まれず個人主義になっている。ダイバーシティの意味である「横を見る」ことを今こそ手掛ける必要があることを総括・講評頂きました。ダイバーシティマネジメントの推進について、佐々木かをり氏のご講演では、ダイバーシティのポイントはチームの総合得点を高めるという目的であると、基調講演を通して参加者に示して頂きました。

4月例会

Make Borderless Friendship
～ShallWeTalk!?CrossCulturePresentation!!～



平成29年4月23日芝浦小学校にて例会を開催致しました。通常の講演型の例会と異なり、外国人約100名を呼び、JCメンバーやその家族が実際に例会を通じて国際交流する設えとなりました。接点のない外国人とどのように親交を深めていくかが運営上、難しい点でありましたが、アイスブレイクとして、各チーム10名に分かれ、それぞれのチームでゲームを行いました。その後は、平和をイメージする色を表現、各国のアイデンティティを1単語で表現するセッションを各チームで発表し、チームの代表者には全体に対しても発表してもらいました。各国のアイデンティティを見ると、日本人の回答は平和や調和などの回答が目立ち、他国の方の回答はダイバーシティなどの回答がありました。例会の目的は、外国人と相互理解を深め、能動的に民間外交を行うようになることです。海外での諸会議、SMBP、さくらサイエンスなど、その後国際交流の機会に積極的に参加していると、国際政策の1年の活動のスタート地点となる4月例会はうまく機能しました。

2017年度例会報告

5月例会

ニュース読解力養成講座
～メディアのプロが教えるニュースの見方～



5月例会「ニュース読解力養成講座～メディアのプロが教えるニュースの見方～」では、東京青年会議所が今年結成したTeamPOSITICSの大学生メンバー13名が登場しました。まず、フジテレビ上席解説委員の平井文夫氏より基調講演を頂き、自分達の生活を守るためにもニュースに関心を持ち、理論武装することが大切。メディアは玉石混交などところがあるので、権力を監視する一つの道具としてとらえ、この道具を見極める能力を身につけることが必要であるといいました。大学生からの質問にもお答え頂きました。第二部では、平井文夫氏、坪井ゆづる氏(朝日新聞論説委員)、土屋直也氏(ニュースクラ編集長)によるパネルディスカッションを実施し、大学生からの質問にお答え頂く形で進行し、各媒体の関係性を理解し、ニュースを読み込み話し合うことの必要性をお話し頂きました。本例会によって、ニュースに関心を持って、ニュースを解釈し、自分なりの考えを持つことの必要性を発信することができました。

6月例会

TOKYOプロデュース会議
～大学生が創る！都議選公開討論会～



6月例会「TOKYOプロデュース会議～大学生が創る！都議選公開討論会～」は、東京青年会議所が2017年結成したTeamPOSITICSの大学生メンバーが議論を重ねて質問内容を考え、当日登壇して質問を行った大学生が創る公開討論会です。NPO法人YouthCreate代表の原田謙介氏をコーディネーターに迎え、都議会各会派の代表に登壇して頂きました。討論では、①若者目線で「今」を考えるセッション(若者世代向けの予算の割合を高めるべきか、都議会議員の役割は都民に理解されていると思うか、若者を取り巻く社会をどのように捉え、どのような政策を考えているか等)と、②若者目線で「未来」を考えるセッション(2020年のオリンピック後、東京はより来ていると思うか、今の予算の使い方の中で削減・効率化できるものはあるか等)に分けて実施しました。各会派の登壇者はいずれの質問にも真摯に回答して下さい、会派ごとの政策や政治哲学が明確になり、聴衆に対して政策情報を伝え、東京都議会議員選挙での投票行動に繋がる内容となりました。

9月例会

「#東京イイもの～ミタイ・キキタイ・伝えたい
How do you find Tokyo?～」



2020年に控える東京オリンピック・パラリンピックを始め、様々な要因から国際都市東京は世界から注目されているため、東京の魅力を国内外に伝えていくことが強く求められています。また、第五回都民意識調査の結果では、都民は国際交流に関心が高く、外国人来訪者に伝えたいテーマとして、歴史、食事、祭事・伝統行事等が挙げられ、発信への意欲は高いというデータが出ております。このような背景の元、当委員会では、東京の魅力を認知してもらい国内外への発信の機会のある場として現在の東京に存在するイイもの・イイことを「#東京イイもの」と定義し、アイドルやオリンピック、伝統文化や最新テクノロジー、飲食から盆踊りに到るまで、多種多様なコンテンツ(ヒト、モノ、コト)を一堂に集め性別、年齢、国籍、宗教、障がいの有無を問わず都民が参加しやすい、祭事形式の設えとして9月例会を六本木ヒルズにて開催しました。当初の目標を大きく上回る8,960名の来場者にお越し頂けると共に、当日の「#東京イイもの」のSNS発信は213万人にリーチし、twitterの当日のトレンドにも入りしました。

10月例会

和の心を世界へ
～東京を世界一の都市に～



平成29年10月18日、ニッショーホールにて「2017年度10月例会和の心を世界へ～東京を世界一の都市に～」を開催致しました。第1部講演では、森記念財団都市戦略研究所大和則夫氏より、「東京2035:輝く世界都市」をテーマに講演を頂き、同財団が掲げる「2035年に東京を輝ける都市にする」というビジョンについて、ビジョン作成のプロセスから「グローバル化と都市のアイデンティティ」に関する議論までをお話し頂きました。また、未来の東京で生活する人々の目線で描かれたアニメーションでは東京の目指すべき姿を具体的に理解することができました。SDG/パートナーズ代表取締役CEO田瀬和夫氏より、「持続可能な開発のための目標(SDGs)と人間の安全保障と「和」の強み」をテーマとしたご講演を賜りました。ご講演では、企業におけるSDGsの取り入れ方のポイントから日本の「和」の心がいかにSDGsに貢献し得るかという点に至るまで、詳細をお話し頂きました。続く、パネルディスカッションでは大和氏、田瀬氏、及びフレンチレストラン「KEISUKEMATSUSHIMA」オーナーシェフの松嶋啓介氏を交えて、「和の心と真の国際人」をテーマに次の世代に向けて我々がどうしていくべきかについて語って頂きました。

7月例会

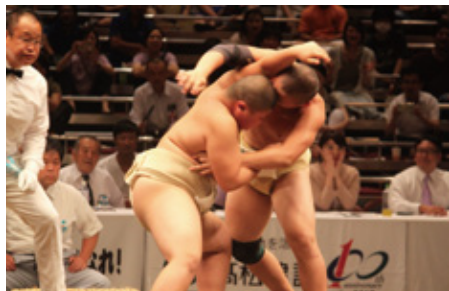
「ヒーローアカデミー」
～2045年、あなたの子供は未来を生き抜けるのか～



技術進化が加速度的スピードで進み、20年後には現在ある仕事の49%は、AIやロボットが行うようになると言われています。しかし49%の仕事の代わりに、新たな仕事生まれます。そんな時代を生き抜くのに必要な資質・能力、そしてそれを養う教育とは何かを考えることを目的として開催されました。当日は第一部にて藤原和博氏による基調講演、第二部では千代田区神田一橋中学校太田耕司校長と中学生6名に登壇頂き、地域と連携する事の大切さ、それにより大きな成長を遂げる子供達を直接目で見てもらいました。そして、第三部では藤原和博氏に加え、中曽根陽子氏、大西克幸氏、池田由紀氏にご登壇頂き、学校・家庭・地域の連携についてパネルディスカッションを行いました。480名を超える多くの方にご参加頂き、その半数が一般の参加者でした。多くの一般参加者を得る事で社会にインパクトを与える事業になったと感じています。

8月例会

第33回わんぱく相撲全国大会「夢に向かって熱くなれ!!」
～つながりから学ぶ和の心～



平成29年7月30日、両国国技館において、2017年度8月例会「第33回わんぱく相撲全国大会「夢に向かって熱くなれ!!」～つながりから学ぶ和の心～」を開催致しました。各地域を代表するわんぱく力士396人が学年別トーナメント方式で取組を行いました。子供たちは両国国技館の土俵の上でひたむきにぶつかり合い取り組み、勝つことの喜びや負けることの悔しさを経験し、これからの「夢」に向かって熱くなりました。当日はニコニコ動画にて生放送を行い全国へ大会の様子を配信致しました。また、沢山の応援動画は、ニコニコ動画生放送で配信し、48,027人の方に視聴して頂きました。また、一部のわんぱく力士を放送ブースに呼び事も新たに行いました。当日色紙は、両国国技館内に展示し、多くの人に閲覧され、地域への感謝の気持ちを展示し、記念に撮影している子供たち、保護者の方が大勢居ました。スタンプラリーによって、1,000食用意したちゃんこも完売し、力士パネルも大盛況で僕も力士になりたいと55%の子供たちが回答し、91%の子供たちが相撲の歴史、日本の文化、和の心を学べたと思います。

11月例会

TOKYOJC×経済成長の流儀
～ダイバーシティマネジメント・レポート2017～



平成29年11月22日、ニッショーホールにて2017年度11月例会「TOKYOJC×経済成長の流儀～ダイバーシティマネジメント・レポート2017～」を開催致しました。社会経済が極めて予測困難な状況に直面する中、多様な個性や価値観を受容・支援・活用することは、「VUCAワールド」を生き残るために、また目まぐるしい変化に柔軟に適應できる組織を作るために必要不可欠です。ダイバーシティマネジメントによる時代の変化に柔軟に対応する人材の育成や働き方の改革を我々青年経済人が担う必要があります。講師の谷口真美氏からは、ダイバーシティは格差・距離・種類に分類することができ、ダイバーシティを取り入れる際の5つのパラダイム(抵抗・同化・尊重・分離・統合)と、何を目的にダイバーシティを取り入れるのかを明確にしてから実践することが重要であること講じて頂きました。藤岡雅美氏からは、「個性は経験の積み重ねの中で創られていく」と提言頂き、ダイバーシティマネージャーとして個人の経験総量を高め唯一無二の個性を生み出す支援ができるかがポイントであることを講じて頂きました。

12月例会

クリスマス・卒業式「和の心を世界へ」
～つながる絆が広げるWA!～



2017年度最後の本例会では、1年間の活動報告を行うと共に、支えてくれた家族へ感謝を込め、そして共に運動を進めてきた卒業生へ敬意を持って送り出すことを目的に開催致しました。第一部では、理事長挨拶、専務理事報告にて活動を振り返り、アワードでは今年度活躍された委員会、メンバーを表彰致しました。2017年度はタイムスケジュールを大幅に変え、第二部にて比嘉愛未様の呼び名で登壇した卒業生109名の卒業式を執り行い、感極まる送辞・答辞の交換、目録の贈呈式を行いました。第三部では、剣術と伎芸を融合した剣技衆かむみ様のパフォーマンスから華々しくパーティーが始まり、子供たちへサンタクロースからお菓子のプレゼントや、参加者全員でプレゼント交換を行う等、初となる数々の企画を行いました。メインゲストにはMAX様のライブがあり、会場は盛り上がりMAXで終盤へと向かい、卒業生からの出し物をもって終幕となりました。卒業生の想いを現役メンバーが引継ぎ、今後もJC運動を邁進して参ります。

委員会活動報告

例会 特別委員会



2017年度、例会特別委員会は、1年間の運動の方向性を対内・対外に発信すべく開催した1月例会を主管させて頂いたほか、審査機関として各月の例会の計画・報告を審査するだけでなく、例会当日の成功に向け、準備段階から当日の開催に関し、運営サイドから支えるという重要な役割を果たさせて頂き、メンバーのためでなく、一体感を持って、東京JCの運動を社会へ発信することを意識して例会を開催させて頂きました。また個々の例会は、主管するそれぞれの委員会の色をしっかりと出すことが重要です。それぞれの委員会の持ち味を活かした安定した運営を実現するために、一生懸命活動させて頂きました。そして2017年度、所属メンバーは、主管する委員会メンバーとの信頼関係を構築し例会を共に作り上げていくことを通じて、日々のJC活動、運動を下から支える縁の下の方たちとしての経験を重ね、また、今後も各地区事業や例会を行っていくにあたって重要となる事業構築のスキルや運営のスキルを得ることが出来ました。

政治行政政策 特別委員会



2017年度は、若者世代の主権者意識の確立と政治リテラシーの向上によって、若者世代が政治への関心を高め投票行動を起こし、未来志向の政治を実現させることを目指し、大学生とTeamPOSITICSを結成し、大学生達と一緒に事業や例会を構築しました。5月例会「ニュース読解力養成講座～メディアのプロが教えるニュースのミカタ～」では、ニュースに関心をもって解釈することの重要性を理解し、その方法論を学びました。その後、6月には、各地区委員会において、公開討論会等の東京都議会議員選挙関連事業を一齐に実施しました。そして、6月例会「TOKYOプロデュース会議～大学生が創る！都議選公開討論会～」では、若者目線による都議会各会派代表の公開討論会を実施しました。さらに、衆議院議員総選挙では公示日後のネット型公開討論会を実施し、東京23区内の17選挙区のうち、前回を大きく上回る15選挙区（名称使用を含む）で公開討論会を開催することが出来ました。特に地区委員会の皆さまの多大なご協力の下に、1年間の運動を遂行することが出来ました。ご協力頂いた多くのメンバーの皆様にお礼申し上げます。

会員拡大 特別会議



2017年度は「東京のため、地区のための最強支援軍団」として、地区委員会に寄り添うパートナーとして活動させて頂きました。2017年度の目的として、1915年アメリカで設立され100年以上にわたり社会貢献運動を発展させてきたJCへの各メンバーの理解や意欲を向上すること、拡大を継続していく仕組みを築くことの2点を設定しました。前年12月に、2017年度に向けた事前準備のセミナーを東京ブロック協議会会員拡大交流委員会委員長の新井佳代子君に行って頂き、2017年2月と4月には東京JC第55代理事長古谷真一郎先輩に、JCの魅力・意義を理解する基本編、実際に取り組んでいくべきことの戦略編の2回に分けて、ご講演頂きました。その後は地区委員会を個別にフォローしながら、各分野で活躍されている方の講演会、魅力あふれる東京JCメンバーとの交流会など、青年経済人としての価値を高め運動を拡大する仕組みづくりの基礎を築きました。今後は、さらに仲間を増やし運動を発展させていく拡大サイクルを東京JC全体に広げ、会員数1,000人以上のさらに魅力ある団体を目指していきます。

東京JC メンバーシップ 特別会議



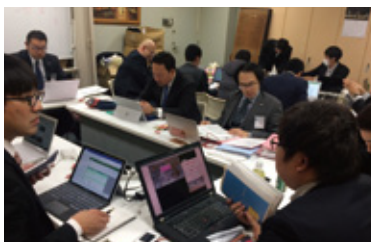
メンバーの皆様の個々の可能性を最大限に活かして頂くために、東京JCメンバーシップ特別会議では、メンバーの皆様には会務政策系委員会の魅力溢れる場の紹介をさせて頂くと共に、活動して行く上で必要な情報をお伝えすべく、JC1セクター資格取得者である佐藤修一郎先輩を講師にお招きし、計2回の勉強会にて事業の意義・目的・可能性や、どのように事業を構築していくのか、実践形式にて学ぶことの出来る勉強会を開催致しました。私達が行うべく運動とはどのような事業なのか、改めて考える機会となったのではないかと考察致します。また、入会して間もないメンバーが運営や設営に携わり、ガイダンスメンバーセミナーや、主管として2017年度最後の例会となる12月例会の開催、そして、全国の青年会議所を知る機会ともなる全国大会でのブース出展や、他団体への事業移管が成功しているフレンドシップキャンプへの参加等、メンバーシップ特別会議での様々な経験を通じて、今後益々青年会議所運動を邁進して頂けますことを確信し、期待を込めてご報告をさせて頂きます。

わんぱく相撲 特別委員会



『夢に向かって熱くなれ』～つながりから学ぶ和の心～という大会スローガンのもと、全国各地域の大会を勝ち抜いてきた132チーム396名の選手を迎え、両国国技館にて第33回わんぱく相撲全国大会を開催致しました。わんぱく相撲の主役は全国各地域の予選に参加頂いた3万7千人の全ての子供たちです。昨年に引き続き、わんぱく相撲海外大会となるモンゴル大会を6月に開催し、文化の異なる地で日本の伝統精神である思いやりの心を伝え、大会を通じて日本の子供と海外の子供が正々堂々取り組むことで友情の架け橋となることが出来たと思います。大会前日においては友観親方より「夢」を題材とした体験談を講演頂き、参加した子供たちに夢に向かって努力することの大切さを学び感動頂き、大会当日においては三保ヶ関親方協力のもと、相撲体験教室を開催頂き、相撲の所作や実技を学ぶことが出来ました。二日間を通して、相撲の殿堂である両国国技館で同じ時間を過ごしたわんぱく力士達が体験したすべての経験は財産となり、今後の彼らの夢に向けて、貴重な一歩となってくれるはずです。

財務審査 特別委員会



2017年度の財務審査特別委員会では、波多野理事長が掲げる「和の心を世界へ～美徳溢れる国際都市「東京」の実現～」に向けた力強い運動展開の為に、地区事業・例会・全体事業を主催・主管する各会議・委員会と連絡を密に取り合うと共に、各会議・委員会がさらに効果的な事業を実施することが出来るよう、70本を超える事業の計画・報告審査・予備審査を通じ、主に財務・規律面から主管委員会のサポートを行いました。また、東京青年会議所本会の経理財務の観点からも、公益社団法人である東京青年会議所が、適切なガバナンス、コンプライアンスを重視し、予算執行にあたって説明責任を果たせるための一助となるべく、審査や理事会等における各会議・委員会に対する助言・指導、会計セミナー及び会計幹事に対する勉強会の実施、監査における指摘事項の各会議・委員会に対する共有化に加え、事業計画書・報告書チェックリストの使用を開始し、公益法人化7年目を迎える2018年度につながる審査体制の構築を行いました。

新宿区 委員会



2017年度は「人は人によって磨かれる」とのテーマのもと、多くの人との交流、会員拡大に力を入れて活動して参りました。具体的には、まず、地域他団体との連携・交流として、シティハーワマラソン・芸術体験ひろば・スポレクに協力したほか、第41回わんぱく相撲新宿区大会を共催しました。次に、諸会議にも積極的に参加し、京都會議・サマコン・全国大会に20名を超えるメンバーで参加したほか、ASPAC・世界会議にも10名以上のメンバーで参加し、他LOMや世界のJCメンバーとの友情を深めました。さらに、一昨年から続く密引き問題をテーマにした事業「第三回新宿イメージアッププロジェクト」として「街パル」を開催することで地域の商店街や行政とも交流し、商店街から感謝のお言葉を多く頂くなどして、連携を強固にしました。これらの活動を行う中、オブザーバーにJCやJC活動の魅力を発信しつつ会員拡大に力を入れた結果、30名以上の新メンバー入会を実現でき、新メンバーの新たな視点を取り入れることで、新宿区委員会やメンバーの更なる成長に繋げることが出来ました。

葛飾区 委員会



2017年度の葛飾区委員会は、13名での出発となりました。葛飾少年相撲大会を皮切りに、多くの地域活動に参加させて頂きながら、第41回を迎えるわんぱく相撲葛飾区大会を開催致しました。2017年度は452名の参加者を数え盛況のうちに終える事が出来ました。2018年は申込方法等を見直し、より参加し易く、子供たちの成長に繋がる大会を目指して参ります。また、2017年度は予定していた東京都議会議員選挙、葛飾区議会議員選挙に加え、急遽、衆議院議員総選挙が行われ、葛飾区では計3件の政治関連の事業が行われ、若者の投票意識の向上を目指し、メンバー丸となって取り組んで参りました。来年は他地区で行われる政治関連事業に率先して協力を行い、地区委員会間で協力に務めて参ります。そして、今年度は、環境に囚われずに子供が夢を叶えることが出来る環境を作ることとを目的とした新規事業を開催致しました。動員について課題が残る事業ではありましたが、今後は行政、地域の教育団体、教育委員会と連携し、実行委員会を組織した上で、小中学校のクラス単位での開催を目指してブラッシュアップを行って参ります。

江東区 委員会



2017年の江東区委員会ですが、2017年度も沢山の活動を行って参りました。主な活動は下記の通りとなります。1月：賀詞交歓会、京都會議、2月：伊勢修養団への参加、4月：六ヶ所村研修、5月：わんぱく相撲江東区大会、6月：東京都議会議員選挙公開討論会の開催、わんぱく相撲東京都大会、7月：年金に関する勉強会、わんぱく相撲全国大会、サマコン、8月：江東アートオリンピック事業講演、硫黄島渡島事業への参加、9月：江東アートオリンピック事業勉強会、全国大会、さくらサイエンス事業、10月：衆議院議員総選挙の公開討論会の開催、OBゴルフ会、江東区民祭りへの出店、11月：卒業旅行、12月：クリスマス会。こちらの活動を通じ、少しでも江東区を活性化させたい、との思いで活動して参りました。2017年度の事業でありました江東アートオリンピック事業ですが、ダイバーシティの実現をめざし、様々な個性を持つ方々と交流し、江東区委員会の財産とする事ができました。2020年のオリンピック・パラリンピックに向け、これからもしっかりと準備を行い、2018年も素晴らしい1年にしたいと思います。

墨田区 委員会



2017年度は新規事業「すみだ防災フォーラム」、わんぱく相撲墨田区大会の2本の事業を中心に1年間活動しました。すみだ防災フォーラムは企業の自助防災力を高めて、地域コミュニティと共助することで地域にあった防災対策の礎を築くことを目的に開催致しました。1、行政の観点から区の現状と課題、2、専門家の知見より企業防災の基礎と地域関連系の重要性、3、東日本大震災の被災事業者による復興までの体験談の3本の柱でフォーラムを開催し、地域内外より160名近くの方がご参加頂きました。わんぱく相撲では今年で41回目の大会を迎え、700名近くの選手が参加しました。大会スローガンより参加選手の夢、目標の宣言や、「和の心」をテーマに昔遊びでの多世代交流イベントを行い、相撲だけでなく様々な企画で楽しめる大会を開催して地域の大きな行事として定着しております。会員拡大にも積極的に取り組み2017年度では5名の新たな仲間が加わりました。まだまだ少人数ではありますが、事業や委員会を通してそれぞれが助け合い、成長してきました。2018年も地域の為、より質の高い委員会運営を行って参ります。

中央区 委員会



2017年度は【和の協創】をスローガンに1年間活動しました。2020年オリンピック開催が決まり中央区では銀座・日本橋を中心に訪日外国人客が増加傾向にあります。地域商店街へ訪日外国人客を受け入れダイバーシティのある地域商業振興を実現すべくインパウンド事業「ウェルカム中央」の運動を展開し地域の魅力を世界へ発信して参りました。また区内の小学生1,000名弱が集まる「わんぱく相撲中央区大会」を開催し相撲を通じて感謝と礼節を学ぶ青少年育成事業を行いました。公職選挙法の改正に伴い中央区では新たに約1,400人が有権者となりました。選挙年齢になる前の早い段階から将来の有権者としての当事者意識を持ち、自らの投票行動を通じて未来を選択する政治参画意識の向上を図ることを目的に日本橋中学校で「模擬投票」の授業を行いました。今後も地域における世代、国籍、所属団体、性別等の価値観の違いを個々の「魅力」を組織の強み、地域の魅力に変革し地域におけるダイバーシティを実現して地域や社会をより良くできる運動展開を地域の皆様と共に進めて参る所存です。

渋谷区 委員会



渋谷区委員会では、Shibuya Positive Action 2017を行いました。Shibuya Positive Actionは、2014年に渋谷区委員会で策定した少子化問題の改善を目的とした5カ年計画の中で4年目にあたる事業であり、2017年度は「父親の育児に対する行動を変え、夫婦共に育児のしやすい社会環境の整備」をテーマに父親がより積極的に育児参加をすることと、夫婦がより柔軟に外部の協力やサービスを取り入れることを提案しました。具体的には、「パパ力」を測定するアプリ「PURPLEマトリクス診断」の作成しリリースした他、親子で楽しみながらコミュニケーションを図ることのできるワークショップを多数実施しました。また、シェアリングエコノミーと育児をテーマとしたトークショーや長谷部渋谷区長と関係企業・団体による座談会などを開催し、「夫婦共に育児のしやすい社会環境の整備」に向け問題意識を共有しました。加えて、ハチ公前広場にて特設ステージを組み「パープルタイ」のロゴ入りバックボードを背景に、本事業に賛同する企業・団体が育児に関する取り組みや公報PRを行うことで、育児に対する企業イメージの向上を図るとともに、積極的に育児を行う父親の象徴である「パープルタイ」の普及に努めました。

委員会活動報告

豊島区委員会



豊島区委員会では、2017年度の大きなトピックスとして2つの大きな事業に取り組みました。まず、5月にWE LOVE TOSHIMA実行委員会が主催する「第40回わんぱく相撲豊島区大会」の運営協力を行いました。例年通り南池袋小学校での開催でしたが、今年は外に土俵を設置するなど新たな試みにもチャレンジし、参加選手348名、保護者696名に参加して頂き、また多くの学生ボランティアにも協力頂き盛会のうちに終了することが出来ました。また、9月には中池袋公園にて当委員会が主催する事業として「国際交流2017～WE LOVE TOSHIMA～」を開催致しました。こちらは今年で2回目の開催となり、豊島区からの後援のほか、駐日キューバ共和国大使館など国際関連団体や、東京商工会議所豊島支部青年部など区内の諸団体からもご協力を頂きました。当日は2,000名を超える方々にご来場頂き「豊島区に関わる日本人と外国人の交流、相互理解を促進し国際色豊かな豊島区に対する地域愛をより一層育む事」に取り組みしました。

大田区委員会



2017年度、大田区委員会では国際交流をテーマに産官学民を巻き込んだ活動をして参りました。その背景には大田区には東京の玄関口と言われる羽田空港があるからです。また、2020年には東京オリンピックパラリンピックが開催する事から国際化に向けた活動が行政を始めとする様々な団体に機運が高まっております。そして、大田区には日本工学院専門学校と言う日本最大の専門学校があり、当専門学校は留学生受入にも積極的に動きだしております。一方、大田区はアメリカSelam市と姉妹都市関係にあり、北京の朝阳区及びに大連市とは友好協力関係都市として締結しております。この様な外交が盛んにされている事を背景にJCとして区民や各地域の団体、企業へと国際交流や多文化共生を推進した活動を行い、「OTAアワード」と言った表彰制度を区に対して提案し、外国人が大田区の地域において活動しやすくなる様に、また区民が外国人と共生する意義を伝える為の運動を行いました。これらのイベントに参加した企業の経営者から行政の方々からは喜びの声が聞けた事はJCにとって大きな成果となりました。

中野区委員会



2016年最優秀拡大率賞を頂いた中野区委員会は、半数以上が入会1年以内の経験の浅いメンバーでの委員会運営となりましたが、わんぱく相撲中野区大会は前年に引き続き3,000名規模で開催。公開討論会を中野駅前で開催する初めての試みも行い、新事業となる「中野まちづくりキャラバン」も開始するなど、様々な挑戦をした一年となりました。特に中野まちづくりキャラバンでは、地域活動に参加したい方への必要な情報や、参加のきっかけを提供するべく活動し、これまで以上に商店街や地域イベントに深い関わりを持つこととなりました。これらの活動を通じ、中野区委員会では新たに5名の入会者を迎え、年初の目標であった20人委員会(休会1名含む)を達成しました。2017年は、原点復帰、JCブランドの再構築をモットーに活動して参りましたが、地域のリーダーを育成する団体として、JCの原点とも言えるブランド力を、その存在感を出せたのではないかと考えております。これからも益々発展していく中野区委員会を2018年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

練馬区委員会



2017年度の練馬区委員会では、「第41回わんぱく相撲練馬区大会」、「ねりまチャイルドミーティング」、「2017年東京都議会議員選挙公開討論会」、「2017年衆議院議員総選挙公開討論会」を開催しました。「ねりまチャイルドミーティング～自分の可能性を探しに行こう!～」では、子供たちが、家庭、学校以外の場所で様々な出会いをしてもらい、様々な文化を知るきっかけになれば、また子供たちが夢を見つけるきっかけになってほしいという思いから、練馬区内にある習い事教室を中心に出席して頂き、光が丘IMA光の広場にて開催しました。当日は、16団体の出展があり、お子様連れのご家族を中心とした約3,600名の方々にご来場頂き、様々な習い事教室、文化、職業に触れて頂く事が出来ました。ステージでは、9つの団体が日頃の練習の成果を披露してくれました。2017年度も多くの経済団体・協力団体の皆様に支えられ、事業を成功させることが出来ました。練馬区委員会一同心より御礼申し上げます。今後ともご協力くださいますようお願い致します。

世田谷区委員会



2017年度の世田谷区委員会は「心を動かし未来を創る～地域を想い地域に学ぶ～」をスローガンに活動して参りました。現在、比較的入会して日の浅いメンバーが多くなっており、委員会を通じ地域と関わり合い学びを得る事で、成長したメンバーの一人一人が次年度以降に学びの場を提供する側として活躍してもらいたいという思いを込めて一年間活動して参りました。2013年度からスタートをした地区事業「夢をかなえる力」は、児童養護施設の退所者が夢を持って社会へ巣立っていく様にと活動してきましたが、今年で5年目を迎え地域から求められる事業となりました。4年目に発足した児童養護施設地域支援団体に活動を移管し5年目以降も継続出来る新たなスタートの準備も出来ました。また、今年41回目のわんぱく相撲をはじめ、せたがやふるさと区民まつりやアドベンチャーin多摩川、せたがや産業フェスタ等、合計年間7本の名称使用事業を通じて地域の様々な団体と交流が出来ました。今後より一層地域から必要とされる団体として世田谷区委員会一丸となって邁進して参ります。

杉並区委員会



2017年、杉並区委員会では杉並区から「美徳溢れる国際都市「東京」の実現」を目指し、外国人を主なターゲットとした地域防災力の向上を目的とした新規地区事業として「Safe City Suginami Project」を起ち上げました。昨年よりわんぱく相撲杉並区大会などに積極的にご参加頂いているエベレスト・インターナショナル・スクール、ジャパンと共催し、ネパールの方々を中心として基調講演やグループワークを行い、外国人が災害弱者とならないためにはどうすれば良いかを考えました。第41回わんぱく相撲杉並区大会では会場を屋内で開催できる杉並区立阿佐ヶ谷中学校に移し、学校対抗戦を復活させました。残念ながら2校のみの参加でしたが、チームとしての連帯感溢れる、大変白熱した取り組みが行われました。また、杉並区を代表するイベントである「すぎなみ舞祭」や「すぎなみフェスタ」にもご協力させて頂きました。杉並区委員会では今後も多くの方々、団体との交流を大切に、明るい豊かな杉並区の実現に向け、青年会議所運動を展開して参ります。

板橋区委員会



2017年度は、波多野理事長から掲げられた「和の心を世界へ～美徳溢れる国際都市「東京」の実現～」を主軸に据え、板橋区委員会では「人との和(輪)」という言葉を実践を進めて参りました。わんぱく相撲大会や事業等を通して、来年・再来年へとつながる新しい出会いからの和(輪)を作り上げることが出来たのではないかと思います。こうした中、2017年度は「Pay it forward～板橋から広げる恩送りのころ～」と題した新事業を8月1日から約1カ月間行いました。善意で人を繋いでいく「恩送り」を板橋から広め、思いやりと助け合いが溢れる社会を作りたいという思いから本事業は始まりました。聞きなれない「恩送り」という言葉を多くの方に理解してもらう為、様々な企画を通じ啓蒙活動を行い、1カ月間で1,060名の方に「恩送りの約束」をして頂ける事に成功しました。その他わんぱく相撲大会を含め5つの名称使用事業を行い、多くの関係諸団体の皆様・学生ボランティアの皆様・他地区メンバーも皆様にご協力を頂き心から感謝申し上げます。2018年度もメンバー一丸となり、熱い気持ちを忘れず頑張って参ります!

台東区委員会



「本義への挑戦」を2017年度台東区委員会の行動指針として示しました。改めてJCマンとしての最も根本となる価値観、つまり「本義」とは「奉仕・修練・友情」の三原則を一人一人が体現出来ることと考えました。2017年度は委員会メンバーと共に本義に沿って行動して参りました。2017年度の運動内容は例年に無く、新たな委員会設置、多くの事業を展開して参りました。まずは台東区をもっと知る必要があると思い、毎月の委員会開催地を台東区中で行いました。事業は、4月のわんぱく相撲、6月の東京都議会議員選挙公開討論会、8月の桜橋・わんぱくトライアスロン、9月のしたまち演劇祭、10月の衆議院議員総選挙公開討論会という事業を展開しました。10月に台東区の新旧住民から成る台東アンパサダーを組織化し、区内11地区で台東アンパサダーが考える台東区魅力発見観光ツアーを実施する新規事業「下町から世界へ～みんなでお出かけの輪～」を展開しました。2017年度は入会数8名と新メンバーが増え2018年度はここ10年で一番大きい体制となり、今年以上のインパクトある運動が展開されると期待しております。

目黒区委員会



2017年度元旦、9名でスタートした目黒区委員会。今年度は拡大と新規事業の成功に向けて、メンバー一丸となって運動を進めて参りました。拡大に関しては他地区や理事、OBの先輩方から多くのオブザーバーのご紹介を頂き、皆で力を合わせて拡大を進めて参りましたが、結果1名の入会にとどまり、目標を達成することが出来ませんでした。しかしながら、今年種を蒔いたものが年明けには入会予定となっていることから、努力は決して無駄では無かったと、次年度の拡大目標達成に向けて新たな決意を固めることが出来ました。そしてもう一つ、当委員会が今年の目標として掲げていたのが新規事業である「Meguro English speech contest～Challenge yourself～」の成功です。これまで名称事業を通じて行政や地域の団体との信頼関係を築いて参りましたが、本事業では今まで関係が無かった大使館や国際交流関係団体との新たな関係を構築するだけでなく、区内の中学生が将来国際社会で活躍できる人材となれるよう、大使館やインドネシア学校の協力を得て目黒区らしき溢れる事業を行うことが出来ました。Thank you for your cooperation!

港区委員会



東京の中心部に位置する港区というフィールドは多数の法人がオフィスを構える世界有数のビジネス街であり、かつ80以上の大使館が立地する国内随一の国際都市といえます。港区委員会はこのフィールドにおいて、東京タワーに各国大使館を集めた港区ワールドカーニバル、赤坂アークヒルズに415名の児童が結集し熱戦を繰り広げたわんぱく相撲港区大会、「東京港を泳げる海に!」をスローガンにお台場海浜公園で開催された東京ベイ・クリーンアップ大作戦、史上初めて新橋SL広場で開催された都議選公開討論会、児童養護施設の子供と大人に交流と相互理解を提供したドリームキャッチャープロジェクト、地域活性化を推進するパワーとなった松坂町会神輿渡御、六本木ハロウィンにクリーン旋風を引き起こしたトラッシュオートリートを実施・参加して参りました。2017年度は八芳園の特別会場で80名のメンバー全員が参加する100%委員会も実現し、いま最も充実した勢いを持つ港区委員会はこのまでの活動を支えてくれた全ての皆様に改めて感謝の気持ちをお伝えするとともに、これからも全力で走り続けます。

品川区委員会



2017年度、品川区委員会は「魅力再発見」をスローガンに掲げ、5つの事業に挑戦しました。①青少年の健全育成を目指した「わんぱく相撲」。②若者世代の政治リテラシー向上を目指した「大学生と政治家の座談会」。③政策本位の投票行動を推進した「衆議院議員総選挙ネット公開討論会」。④4回目となる英語スピーチコンテストは「世界に興味関心を持ち、世界と積極的に関わることのできる国際人の育成」を目的に、事前交流イベントとスピーチ本戦を実施し、多くの方に英語に触れる機会を提供致しました。⑤2017年度初開催のしながわ魅力再発見プロジェクトは「商店街企業とベンチャー企業の融和による新規視点のビジネスモデルの構築に向けて品川区民を行動させること」を目的に、商店街企業とベンチャー企業の合同チームによるプレゼン大会を行い、区内事業者に新しいビジネス視点を提供しました。2017年度私どもの運動にご理解ご協力賜りました皆様に改めて厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。来年の品川区委員会も何卒よろしくお願い致します。

荒川区委員会



2017年度「学び」をスローガンに一年間活動してきた我々は、地域防災をテーマとした勉強会・そして、地区事業と東京都議会議員選挙・衆議院議員総選挙の公開討論会を開催しました。まず、地区事業「あそぼう!まなぼう!あらかわぼうさい!」では荒川区社会福祉協議会との共催により、これまでに関わる事のなかった多くの地域団体・地域で活動するボランティアの方々や協働し運動を行うことが出来ました。この繋がりは地区にとって新たなエンジンとなり、将来の地域を支える関係となることでしょう。わんぱく相撲荒川区大会では、運営の間緑化を行い新たな参画者を想定した運営、未就学児に対象を広げた未来に向けた試みを効果的に行うことが出来ました。そして、東京都議会議員選挙・衆議院議員総選挙の公開討論会においては、公開型・ネット型双方で行うことで区民に効果的に候補者の政策を伝える手段を得るに至り、多くの学びを得て、一年の運動を終えることが出来ました。この一年、我々の活動をお支えいただいた先輩諸兄、地域関係団体の皆様にご場をお借りして感謝申し上げます。

委員会活動報告

千代田区委員会



2017年度千代田区委員会では地域活動として1月の区長選挙公開討論会から始まり、社会福祉協議会主催の福祉祭りに参加をして参りました。公開討論会は区長選挙だけではなく、東京都議会議員選挙・衆議院議員総選挙もありました。その公開討論会の中では標語を大学生と共に製作し、その標語にキレイキレイの上田三根子先生からイラストを書いて頂きました。その標語イラストを各地区での公開討論会でも使用し頂き、公開討論会から新たな運動を展開することが出来ました。事業においては7月例会を主管させて頂き、500名弱の動員にも成功しました。また半数近くが一般参加者となり、社会にインパクトのある事業を展開出来たと考えています。また7月例会という大きな目標の中、11名の新たなメンバーを獲得することが出来ました。一つの目標に丸となれ、委員会の雰囲気も明るく、それが一つの拡大成功の要因になったのではないかと考えています。全てにおいて充実した一年だったと感じています。また来年度もこの勢いを引き継ぎ、更なる飛躍の年になると確信しています。

北区委員会



北区委員会では、昨年度の新規事業を引き継ぎ、子供たちに夢を与えるというテーマに対して、より具体性を持たせた事業を展開していくことを試みました。そこで、世代間交流の場を通じ子供たちが具体的な将来像を描くことが出来るための事業、「北区つながり創造プロジェクト～他世代でつくる未来～」を行いました。将来の進路について具体的に考えていく世代である中学生をターゲットとし、地域の人たちの設えによる職業体験を通して、将来の自分について発見や気付きを与えることが出来ました。また、地域事業である「わんぱく相撲北区大会」「北区花火会」「飛鳥山新能」に参加し協力していくことで、我々の活動を広くPRしていきましました。さらには、東京都議会議員選挙の公開討論会も行い、若手世代を中心に選挙への関心を高め、各政党の主張を理解してもらえるように努めました。来年はこうした様々な活動を踏まえ、夢を持つことや将来像を描くことの前に、自己肯定感を感じることが出来ない家庭環境の子供たちをターゲットとして事業を展開して参りたいと考えております。

江戸川区委員会



2017年度江戸川区委員会では、「第41回わんぱく相撲江戸川区大会」、「江戸川区共育のすゝめ」、「第12回江戸川区国際フットサル大会」と年間を通して活動を行って参りました。わんぱく相撲江戸川区大会では、2017年度江戸川区内の全73校の小学校にメンバーでチラシをお持ちして直接参加申し込みを致しました。結果、昨年を上回る700名を超える子供たちに参加して頂く大会となりました。2017年度事業の「江戸川区共育のすゝめ」では、地域で行う共育環境整備の推進を目的に、講師に江戸川区長と北野大氏をお迎えしてフォーラムを開催致しました。区内事業所での中学生の職場体験の受け入れも行って頂き、まだまだ実例を増やしていく段階ではありますが、今後、より多くの区内事業所に受け入れを行って頂ける共育環境整備の推進を行って参ります。「第12回江戸川区国際フットサル大会」では当日悪天候の中、申し込み全チームの参加を頂き190名で盛況に大会を開催する事が出来ました。来年以降はより外国人参加チームを募り、スポーツを通じて国際交流を図れる魅力ある大会にしていければと思います。2017年度江戸川区委員会では、通年で拡大に力を注いで参りました。拡大数でも年初に掲げておりました5名の拡大目標を大きく超える事が出来、来年以降の委員会拡充に向け大きく前進できる1年となりました。

文京区委員会



2017年度文京区委員会は、先輩方が築いてきた伝統を受け継ぎつつ、新たな革新を生み出す事業を展開しました。まずは4月のわんぱく相撲文京区大会。参加児童数は一昨年から1.5倍に増加し、盛大に執り行うことが出来ました。また、昨年まで東京青年会議所の事業として開催してきたリーダーシップ事業。高校生を対象とした1日ワークショップを今年も実施し、リーダーシップについて学んで頂きました。文京区内の中学生に対して社会人が出前授業を行い、仕事について学んでもらうキャリア教育「寺子屋」も、例年通り実施致しました。さらに今年は新事業「こころのバリアフリー推進プロジェクト」をスタートしました。2020年に向けて、パラリンピック種目のポッチャ体験、車椅子体験や目の見えない方によるコンサートを実施するなど、障がいのある人となない人が交流する場を作りました。会員拡大にも注力し、文京区委員会のメンバーは1.5倍に増加しました。女性会員比率も向上し、ダイバーシティの拡大に成功しました。来年もこの勢いを引き継ぎ、開かれた文京区委員会を築いて参ります。

足立区委員会



2017年度は、「わんぱく相撲足立区大会(5月)」「東京都議会議員選挙関連事業座談会(6月)」都民意識調査を基に構築した新規事業「あだち超学園祭(10月)」そして衆議院議員総選挙に伴う「ネット型公開討論会(10月)」と、大変多くの事業を開催させて頂きました。わんぱく相撲では、人力車による優勝パレード等初めての企画にもチャレンジをさせて頂き、西新井大師光明殿にて多くのわんぱく力士、そして多くの関係者の皆様と共につくる大会とすることが出来ました。あだち超学園祭では大学生を中心に、行政や商店街、地域の関係団体の方など、今までにはなかった新しい関係性を構築しながら事業を開催することが出来ました。2つの政治系事業では、お洒落なカフェで座談会を開催するなど、若者が参加しやすい工夫をすることで、若者を中心に主権者意識を育むことができたことと確信しております。このように多くの皆様に支えられ、ご協力いただきながら一年間活動をさせて頂きました。ご協力頂きました全ての皆様に心より感謝申し上げます。

総合政策委員会



総合政策委員会では、「多様な個性を組織の強みに変えるダイバーシティマネジメントの推進」をテーマに活動して参りました。2月例会での動機づけ、実践方法を知る場として3回の勉強会の開催、年間を通した調査研究の集大成として11月例会を行いました。私たちの調査研究の結果、組織全体のパフォーマンスを向上させるには、個人・組織の意識や行動、あらゆるレベルでのイノベーションに加え、一人ひとりの潜在的で多様な能力を掘り起こし、生産性を向上させていく必要があることが明らかになりました。その解決策として、①多様性社会において柔軟に対応できるリーダーや自立した個人の創出、②利益拡大と個人の幸福度を尊重した経営の実現、③隣人を理解し、世代や立場を超えた地域コミュニティの確立が必要であると考えております。これら個人・組織・地域の3つの柱でダイバーシティを推進することで社会に好循環を起こし、地域経済の活性化から社会全体に波及効果を生み出すものと考えます。2017年度中に提言書を作成し皆様に配布しますので、ぜひご覧下さい！

対外連携推進会議



ダイバーシティ推進室に属する対外連携推進会議は、組織のダイバーシティという観点から東京JC以外の組織との連携を主眼として一年間の活動を行いました。主な活動としては関連団体への挨拶や訪問、各種対談などへの同行でした。またFacebookグループを用いて「Tokyo Ambassadors(東京アンバサダーズ)」というコミュニティを作り、弱い繋がりでも繋がるSNSならではの特性を活かしたツールを築きました。今後も継続的な運用と発信を行うことで、東京JCの運動を効果的かつ効率的に発信することのできるツールになると確信しています。地道な活動の多かった会議体ですが、オンとオフの切替えをしっかりと行い、一年間を通して常に明るく組織であったと感じています。生涯の友を築くことの出来たこのチームに、そして関わって下さった全ての皆様に感謝を申し上げます。

東京JCムーヴメント発信会議



2017年度の東京JCムーヴメント発信会議は、東京青年会議所が行う事業などの「広報活動」を行う委員会です。東京JCニュース(年4回発行)・コーポレートプロフィール(団体案内)などの冊子制作、当団体・事業などのTV・新聞などメディアへの広報活動、例会・諸会議の撮影と発信、SNSでの事業などの配信を行いました。2017年度はメディアに取材されるケースが多く、東京都議会議員選挙・衆議院議員総選挙・わんぱく相撲全国大会のみならず、東京青年会議所理事長として女性初となる波多野理事長の取材も獲得しました。プレジデントウーマン(冊子)・BigLife21(冊子)・政治山(VWEBメディア)など当会議体为主导し、取材を獲得しました。また、東京青年会議所メンバーや対外の告知を強化し、事業カレンダーの制作・事業の事前告知の投稿などを行い、事業への動員に積極的に協力を致しました。各委員会へのHP・SNS運営フォローなど発信に関して、アドバイスを行いました。2017年度、ご協力して頂きました関係者の皆様、ありがとうございました。

国際都市推進委員会



2017年の大きな担いとしては、真の国際人の育成を目指す中で日本人のアイデンティティの確立とともに、和の心を世界へ広げるべく運動して参りました。3月例会では日本文化から和の心を学ぶことの意味や必要性を理解し、個人の意識の中に民間外交の礎を築きました。年間を通して、国際政策委員会が担うASPACや国際会議に代表される民間外交の機会提供に協力して参りました。運動のまとめとして、10月例会では、世界の都市間競争の下で東京の目指すべき姿を指し示し、世界中に和の心を拡げていくことの重要性を伝え、私達一人一人がこれから何を行わなければならないか意識と行動を変える例会を主管いたしました。本年で取り上げた日本人の精神性を持って世界との課題を共有解決するためにSDGs(持続可能な開発目標)を2018年度国際政策室の運動で更に推進して参ります。

東京JCブランド確立委員会



当委員会では、JCのブランドを「人、運動、歴史」と定義し、年間の活動を行って参りました。2017年度のブランディング活動として、アウトコミュニケーションにおいては、理事長スローガン、テーマカラーを基軸に、対外的なJCブランドのイメージの統一化を図りました。Webサイトにおいては、各地区の投稿促進、新規入会者向けのページ制作等を実施し、全体のページビュー数は対昨年度比66%増となり、入会問い合わせページにおいては261%増となりました。インナーコミュニケーションにおいては、新たな試みとして、東京JCの公式アプリである「JCadapta」をリリースし、情報の一元化、およびメンバー同士のコミュニケーションの円滑化を目指しました。また、東京青年会議所のブランディングを向上させる試みとしては、ブランディングの手法論やセルフブランディングの座学、またその実践に至るまで計4回のブランディングの勉強会を実施しました。そして、当委員会の担当である9月例会では、国際都市東京の魅力を国内外に発信する事を目的として、六本木ヒルズにて開催致しました。

国際政策委員会



今年の国際政策委員会は、4月例会にて外国人を100名程呼び、国際交流を行ないました。6月はウランバートルにてAPICC、ASPACが開催され、アジア各国LOMと交流しました。7月下旬にはモングルのわんぱく力士を迎え、東京案内を行う中で、モングルの子供、青年と交流しました。8月18日-21日はマニラ青年会議所メンバーとスモークマウンテン(SM)の子供たちが来日しました。過去5年間はマニラで開催されたが、2017年度はスモークマウンテン(SM)で選出された約15名の子供たちが日本に来て、野球教室、親善試合、東京ドームにてプロ野球の練習見学、試合観戦を行ないました。東京・マニラ側それぞれの文化や精神性を学ぶ良き機会となりました。9月19日-25日は中国全青連の方と中国の大学・院生13名を招き、日本の水道技術に関する企業へ訪問し、共に水道技術に関して学びました。1週間を通じ、日本文化・観光資源を示し中国の青年と親交を深めました。11月上旬には世界会議がアムステルダムにて開催され世界のLOMのメンバーに日本文化を発信・交流を行ないました。11月下旬には廈門へ訪問し、中国企業の会社や工場を訪問し、企業家と交流しました。

総務委員会



2017年度、総務委員会は東京青年会議所の運営の肝であるという「誇り」、総務委員会こそがすべてのメンバーの見本となるべく存在で去るという「責任」を常に心に刻むべく「誇りと責任」を委員会スローガンに掲げ、基本資料・定款諸規則の検討から始まり、各種大会の登録や東京JCナイトの設営、理事会当初会議の準備及び運営、入会審査、コンプライアンス関連の書類の審査などを行って参りました。決して表に出ることなく、地味で100%出来て当たり前という厳しい条件の中、入会歴の浅いメンバーを中心に各地域から揃った個性豊かなメンバーが活動の本質を理解し、切磋琢磨一年間活動を行ってきた結果、最高の総務チームを築くことが出来ました。総務委員会に快くスタッフを出してくれた地区委員会の皆様、設営にご理解を戴いてご協力をしてくれた皆様、我々の活動を陰で支えてくださるご家族や会社の皆様、そして一年間共に戦ってきた愛すべきメンバーの皆様、本当にありがとうございました。すべての皆様に心より御礼申し上げます。

委員会活動報告

渉外委員会



渉外委員会は、美徳溢れる国際都市「東京」を実現させるべく、LOM内外において「東京青年会議所とはどうあるべきか」を常に考え活動して参りました。他LOMと東京青年会議所を繋ぐ役割を担うこと。そして東京青年会議所役員のスケジュール管理や各種諸会議において行動を共にすることで、円滑な運営に貢献出来たと考えております。渉外とは、読んで字の如く「外を渉(わた)る」と書きます。2017年度は国内渉外業務に加え、ASPACや世界会議を中心とした海外での渉外業務も担当させて頂きました。青年会議所の運動は1年間を通してのストーリーがあり、全てに参加することで本質をより深く知ることが出来ます。我々渉外委員会は、東京青年会議所役員と共にほぼすべての諸会議の現場に向き、核心にふれることで、メンバー全員が一回りも二回りも成長を感じることが出来ました。最後に、皆様には渉外委員会の活動にご理解とご協力を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。1年間本当にありがとうございました。

財務運営会議



財務運営会議は協賛企業を探し、協賛金を獲得するという活動をして参りました。これは安定した財務基盤確立に向けての活動となります。企業様に東京青年会議所の協賛企業となつていただき、協賛金を公益活動促進のために使用させて頂きました。また、例会等において協賛企業様のご紹介をさせて頂き、協賛企業様と東京青年会議所の相互メリットを模索して参りました。我々東京青年会議所は「明るい豊かな社会」を実現するため運動しております。それは誰もが考える理想社会を構築することであり、困難な運動であることは間違いありません。協賛をお考えの企業様、この困難な運動にチャレンジしている我々東京青年会議所には是非とも暖かいご支援を賜りたいと思います。我々財務運営会議も協賛企業様と一度きりのご縁だけではなく、2017年度の協賛企業様との繋がりを2018年度へと繋げ、2018年度ではそれを受けた上で新しい繋がりを求めて活動して行く事で東京青年会議所の認知度は上がり、協賛企業様のメリット享受、東京青年会議所の安定した財務基盤の確立を致します。引き続きご支援の程、宜しくお願い致します。

日本JC諸大会報告

京都会議



2017年1月19日～22日にて京都会議が開催されました。京都会議は日本青年会議所の会頭所信があり、青年会議所の一年の運動のスタートとなります。2017年度・第6代会頭青木照護君の基本理念は自己成長を求め「日本道」を歩もう「日本を変えるのはオレたちだ!!」です。京都会議では日本道をテーマに、各種フォーラム、セミナーが開催されました。

サマーコンファレンス



2017年7月22日23日の日程で「日本を変えるのはオレたちだ!!」をテーマに掲げ、横浜の地にて、サマーコンファレンス2017を開催致しました。本年は教育再生・経済再生・民間外交・地域再興の4テーマで20のフォーラム・セミナーを実施し、すぐにLOMで実施できるようパッケージ化された政策を聞くことができました。

全国大会



2017年9月28日～10月1日の日程で「運命共同体」をテーマに掲げ、第66回全国大会埼玉中央大会が開催されました。日本青年会議所の1年間の運動の集大成として、各種フォーラム、セミナーを開催致しました。

JCI・海外渡航報告

APICC・ASPAC

2017年6月にAPICC (Asia Pacific International Cities Conference)・ASPAC (Asia-Pacific Conference) がモンゴルのウランバートルにて開催されました。ASPACの前日に開催国の首都LOM が主催するAPICCという会議があります。APICCではアジアの首都LOM約10ヶ国が集まり、それぞれの国の発展の歴史をプレゼンテーションし、意見交換を行いました。ASPACでは、各種ファンクションがあり、多くのメンバーが参加をして勉強をしました。ASPACのジャパンナイトで東京青年会議所は、国際政策委員会が中心となり運営を行いました。日本のソフトパワーであるゲームの任天堂スイッチでマリオカートを行いました。日本人のみならず外国人も多くゲームを行い大変盛り上がりました。日本の文化を海外に強く発信できました。



世界会議

2017年11月にオランダのアムステルダムにて世界会議(世界中のJCが集まる会議)が行われました。世界会議では次年度のJCIメンバーの紹介など各種ファンクションがありました。アワードでは、国際政策委員会が8月に行ったマニラJCとの共同事業であるスモークマウンテンベースボールプロジェクト(SMBP)が最優秀組織間協働プロジェクトで最優秀事業として表彰されました。SMBPは、フィリピンの首都マニラにアジア最大級のスラム地域スモークマウンテンで、生活を送っている子供たちに対して、マニラJCと共催して、野球を通じて社会進出への夢や希望を届ける事業で2012年から行っております。過去マニラで行っていましたが、2017年は日本で行い、名球会に所属する柴田勲選手(名球会所属)による野球教室などを行いました。世界会議のジャパンナイトでは、東京青年会議所は、福笑いの顔を外国人のメンバーに作ってもらい楽しんでもらいました。





〒102-0093 東京都千代田区平河町2-14-3 青年会議所会館2F
公益社団法人 東京青年会議所 事務局 TEL.03-5276-6161 FAX.03-5276-6160

<http://www.tokyo-jc.or.jp>